

旧イスパニア研究所の活動

開催年月日	講演会・シンポジウムテーマと講演者名
1988/6/24-26	国際シンポジウム「セルバンテスと『ドン・キホーテ』」 E. C. ライリー(エディンバラ大学)「読者及び作者としてのセルバンテス」 剣持武彦(上智大学)「日本における『ドン・キホーテ』」 稲本健二(天理大学)「文化的事象としてのセルバンテス」 J. B. アバジェ・アルセ(カリフォルニア大学・サンタバーバラ校)「ドン・キホーテ、サンチョ、ドウルシネアをめぐって」 牛島信明(東京外国語大学)「読む行為としての『ドン・キホーテ』」 A. サンチェス(スペイン高等学術研究所)「全作品の集約としての前編(1605)25章」 本田誠二(神田外国語大学)「『ドン・キホーテ』における愛と葛藤劇とセルバンテスの思想」 J. フェルナンデス(上智大学)「ドン・キホーテとサンチョ:『この辛い孤独に残されて』(II,10)」
1992/1/13	「東方文明に開かれたヨーロッパの窓:スペイン」 フランシスコ・マルケス=ビジャヌエバ(ハーバード大学)
1992/6/18	「スペインにおける地方主義の起源と展開」(共催) 近藤仁之(スペイン国立マドリッド自治大学)
1992/5/14	「翻訳学について」 ルイーザ・バスバリ(ニューヨーク州立大学)
1993/1/12	「クリストバル・コロンの神話」 アバジェ・アルセ(カリフォルニア大学)
1993/5/12	「スペイン語の発話のタイプ」(共催) ベルナール・ポティエ(パリ大学)
1993/10/8-10	「外国語としてのスペイン語教授法」セミナー 講演:ミケル・リョベラ(バルセロナ大学)「大学における外国語教育」、 エルネスト・マルティン(バルセロナ公立語学学校)「外国語としての西語教授内容課程」 ワークショップ:ミケル・リョベラ「教員養成と授業参観」 エルネスト・マルティン「外国語としての西語教育におけるコミュニケーション」 コロキウム:「本セミナーでの発表と日本における西語教育をめぐって」
1994/10/9-10	「スペイン語動詞における弱勢人称代名詞」,「新版『スペイン語文法』の基本原則」 エミリオ・アラルコス・ジョラク(スペイン王立アカデミア会員)
1994/6/29	“La vida en Santo Tomás y en Ortega y Gasset” サンチェス・デ・ボスケ(サラマンカ大学)
1995/9/4-9	「外国語としてのスペイン語教授法」セミナー ミケル・リョベラ(バルセロナ大学)、エルネスト・マルティン(ボンペウ・ファブラ大学)
1996/2/19	「スペインの貴族階級としてのイダルゴ性」 アンヘル・サンチェス・デ・ラ・トーレ(マドリッドコンプルテンセ大学)
1996/11/15-17	第3回「外国語としてのスペイン語教授法」セミナー ダニエル・カサニイ(ボンペウ・ファブラ大学)
1997/11/7-8	「スペイン美術とカトリックの諸相」(共催) 岡田裕成(福井大学)「美術」から排除された美術:17世紀セビーリヤの聖像彫刻とその周辺」 安發和彰(東北芸術工科大学)「ベアトウス写本の“カトリック教会”図」 松井美智子(東北学院大学)「エル・エスコリアル修道院聖堂の主祭壇画をめぐる一考察」 木下亮(昭和女子大学)「ゴヤとカトリシズム」 大高保二郎(上智大学)「ピカソの宗教画、“磔刑”図像の変容」
1998/12/11-12	「世界史の転換1898-米西戦争百周年記念シンポジウム」(共催) 基調講演:三輪公忠(上智大学)「米西戦争(1898)-世界史の転換点」 講演:デイヴィッド・トラスク(元米陸軍歴史研究所所長)「冷戦下の米西戦争研究-米国の事例」 ファン・アピレス(スペイン国立通信教育大学)「1898年の敗北、スペインの視点」 エウセビオ・レアル・スピングレル(ハバナ市博物館館長)「キューバとフィリピン-独立への道に見る類似点」 レイナルド・イレート(オーストラリア国立大学)「98年フィリピン革命と米国のフィリピン占領、20世紀におけるその意味」
1998/12/14	「スペイン近代史(米西戦争)」 ファン・アピレス(スペイン国立通信教育大学)
1999/11/19-21	「スペイン映画、その歴史とながれ」 ラファエル・ウトウレラ(セビージャ大学) 「オーディオ・ビジュアル言語の誕生と映画産業の形成. スペイン独自のスタイル、その起源と展開」 「映画産業成立における様々な歴史的妨げ. 文学と音楽が映画に及ぼした影響、フラメンコ」 「映画の社会的政治的な状況:独裁から自由へ. フランキスモと民主主義の映画にあらわれるスペインのイメージ」 「ECの社会と現代スペイン映画. オーディオビジュアルの未来に向かう新世代の映画製作者たち、 現代の複雑さの中で見られるアイデンティティの徴候」
2000/12/8-9	「カルデロン・デ・ラ・バルカ生誕四百年記念講演会『スペイン演劇』」 フランシスコ・ルイス・ラモン(ヴァンダービルト大学)「道化師へのレクイエム『人生は夢』」、 「ドン・ファン・ファンダールからドン・ファン・ロマンティコへ:もしくはドニャ・アナからドニャ・イネスへ」、「ロルカと三大悲劇」

2001/10/19-20	「ヨーロッパ連合におけるスペイン」 チャールス・パウエル(オルテガ・イ・ガセツ大学院大学)
2002/7/9	“13 Poetas Testimoniales-Poetas Españoles y Picasso” アルフレッド・ゴメス・ヒル(マドリッド、フランシスコ・デ・ビトリア大学)
2002/10/9	「スペイン文化講演と鑑賞」 アルフレッド・パネビアンコ、バニア・デル・モナコ
2002/11/16-17	「ガウディとその時代」 フアン・ホセ・ラウエルタ(カタルーニャ工科大学)「ガウディとその時代」、 大高保二郎(早稲田大学)「ピカソが生きたバルセロナーモデルニズムの光と影」、 鳥居徳敏(神奈川大学)「ガウディ作品とその時代造形ー洞窟造形のガウディ様式」、 フアン・ホセ・ラウエルタ「世界遺産『グエル公園』とその時代ーカタルーニャの聖地デルフォイ」
2003/6/9	“Las últimas corrientes de la poesía española contemporánea” ホセ・マリア・アルバレス(詩人)
2003/7/4	“Las ONG en la sociedad actual” ロケ・グラウ(インテルビダ・ジャパン代表)
2003/09/16-19	“Seminario de variación del español” ジョン・M・リップスキ(ペンシルベニア州立大学)、上田博人(東京大学)、三好準之助(京都産業大学)
2003/10/24	“España y el Islam: una plataforma multicultural” ホセ・ルイス・アベジャン(マドリッドコンプルテンセ大学)
2004/04/23	「16世紀サラマンカ学派における人権」 カルメン・マルティネス・ソラ(歴史学博士)
2004/6/11-13	“SEMINARIO DE LINGÜÍSTICA DEL CORPUS DEL ESPAÑOL” マーク・デービス(ブリガム・ヤング大学)
2004/11/12	「異形なる単一性の国スペイン」 ルイス・ゴイティソロ(小説家、スペイン王立アカデミー会員)
2005/5/11	「ザビエル生誕五百年ースペイン・ナバラ、ザビエル2006」 スペイン・ナバラ州政府代表団
2005/11/30	「詩と絵画ー美術研究者と詩人の視座からー」 ホセ・コレドル＝マテオス(現代美術研究者、詩人)
2006/7/1-2	“Jornadas sobre Métodos Informáticos en el Tratamiento de las Lenguas Ibéricas” デヴィッド・ジョン・ヒープ(カナダ西オンタリオ大学教授) マリア・ベレア・サバテル(バルセロナ大学カタルーニャ語文献学、教授) マヌエル・ゴンサレス・ゴンサレス(サンティアゴ大学教授) ゴッツオン・アウレコエッチェア・オラバリ(バスク大学、バスク言語地図の技術主任) 上田博人(東京大学) 宮本正美(神戸市外国語大学) 高垣敏博(東京外国語大学) アントニオ・ルイズ・ティノコ(上智大学)
2006/11/30	La Memoria Escrita「文字に刻みつけられた記憶」写真展:2006/11/28-12/11 ルイス・アロンソ・オカニャ(フォトクリエーター)
2007/11/28	“La cultura y medios de comunicación en español” フアン・ルイス・セブリアン(Grupo Prisa 最高経営責任者、スペイン王立アカデミー会員)
2008/1/15	「Perico Pastor 現代と自分を実践する」 ペリーコ・パストール(画家)
2008/10/14	“La guerra en la literatura española”「スペイン文学における戦争」 フランシスコ・パウティスタ(サラマンカ大学)
2009/1/20	“Instituto Cervantes y el Nuevo DELE en Japón” ビクトル・ウガルテ(セルバンテス文化センター館長)
2009/06/30	“El terremoto de 1596 y su recepción en las descripciones jesuitas europeas” マリア・アントニア・マルティ・エスカジョル(バルセロナ自治大学講師)
2009/7/11	「ラテンビート映画祭の歩み」 「日本におけるラテン映画祭の簡単な歴史とLBFF開催の動機から実現まで」 「ハリウッド映画におけるステレオタイプの“ラテン”」 アルベルト・カレロ・ルゴ(LBFF実行委員会会長)